

すくすくどんどん 総合版11-A

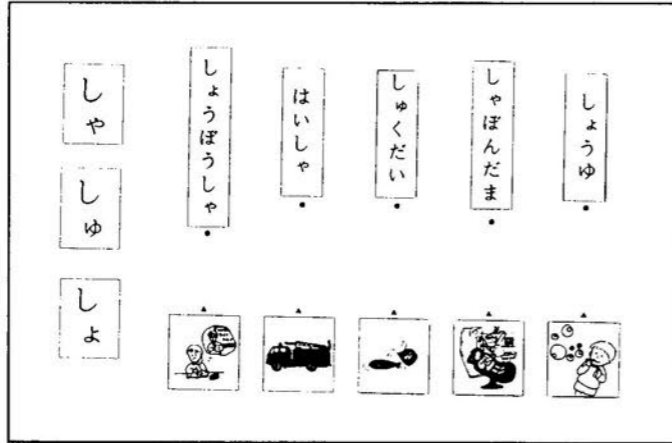
解答

教育デザイン研究所

1

言語／拗音（しゃしゅしよ）

A11



【問題】

（左はしのひらがなを読んで、復唱させて下さい。）

「しゃ」「しゅ」「しよ」

1. 上の段のことばを1つずつ読んで、それにあう絵と線で結びましょう。
2. 上の段のことばで、最初に「しゃ」のつくものに、赤の○をつけて下さい。
左はしのひらがなの「しゃ」にも、赤の○をつけておきましょう。
3. 上の段のことばで、最後に「しゃ」のつくものに、だいだいの○をつけて下さい。
4. 上の段のことばで、最初に「しゅ」がつくものに、緑の○をつけて下さい。
左はしのひらがなの「しゅ」にも、緑の○をつけておきましょう。
5. 上の段のことばで、最初に「しよ」のつくものに、茶色の○をつけて下さい。
左はしのひらがなの「しよ」にも、茶色の○をつけておきましょう。

【解答】

1. 
2. しゃぼんだま
3. しょうぼうしゃ、はいしゃ
4. しゅくだい
5. しょうぼうしゃ、しょうゆ

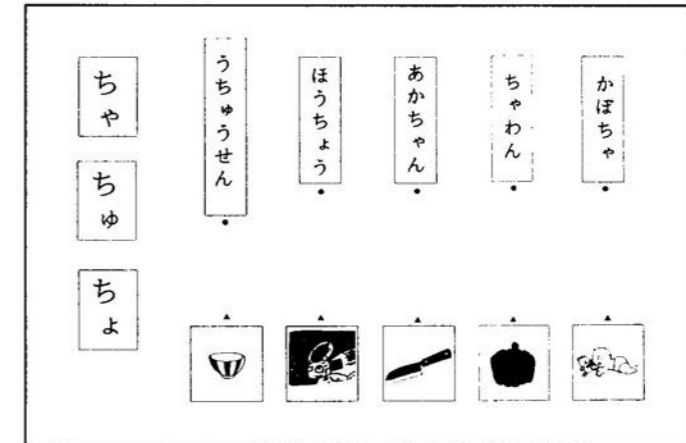
【指導のポイント】

ことばを1つずつ指で示しながら読んであげて、子どもにも復唱させて下さい。最初から無理にひらがなを読ませようとせず、読み方を耳で聞かせながら、対応する文字を目で確認させることが大切です。拗音の表記で、「しゃ」の「ゃ」は、「し」の右下（縦書きの場合）に小さく書くことを教えてあげて下さい。

2

言語／拗音（ちゃちゅちよ）

A11



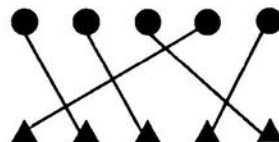
【問題】

（左はしのひらがなを読んで、復唱させて下さい。）

「ちゃ」「ちゅ」「ちよ」

1. 上の段のことばを1つずつ読んで、それにあう絵と線で結びましょう。
2. 上の段のことばで、「ちゃ」のつくものに、赤の○をつけて下さい。
左はしのひらがなの「ちゃ」にも、赤の○をつけておきましょう。
3. 上の段のことばで、「ちゅ」のつくものに、黄色の○をつけて下さい。
左はしのひらがなの「ちゅ」にも、黄色の○をつけておきましょう。
4. 上の段のことばで、「ちよ」がつくものに、緑の○をつけて下さい。
左はしのひらがなの「ちよ」にも、緑の○をつけておきましょう。

【解答】

1. 
2. かぼちゃ、ちわん、あかちゃん
3. うちゅうせん
4. ほうちょう

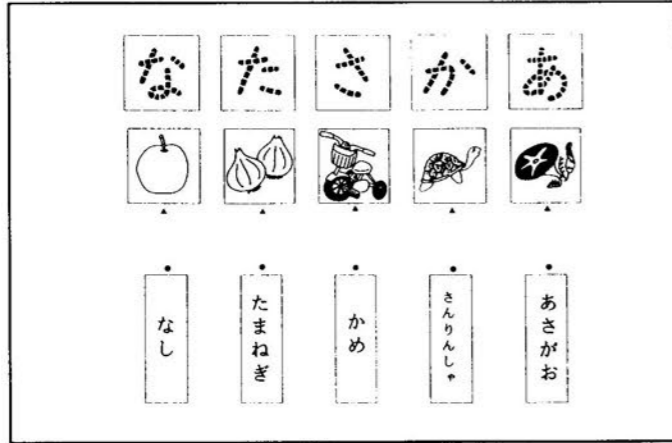
【指導のポイント】

ことばを1つずつ指で示しながら読んであげて、子どもにも復唱させて下さい。最初から無理にひらがなを読ませようとせず、読み方を耳で聞かせながら、対応する文字を目で確認させることが大切です。拗音の表記で、「ちゃ」の「ゃ」は、「ち」の右下（縦書きの場合）に小さく書くことを教えてあげて下さい。

3

言語／ひらがな（あ段）①

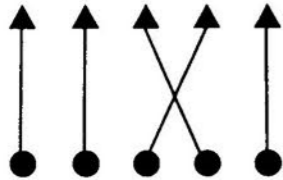
A 1 1



【問題】

1. 上の段のひらがなを、なぞって書きましょう。
(書けたら、右から読んで復唱させて下さい。「あ」「か」「さ」「た」「な」)
2. まん中の段の絵は、上の段のひらがなが最初につくものです。絵にあうことばを下の段から選んで、線で結びましょう。

【解答】



【指導のポイント】

後期では、ひらがなを1文字ずつなぞり書きする練習をします。まず、お手本を書いてみせて、筆順を教えてあげて下さい。その際、「よこ、たて、くるりん」(「あ」)などと声をかけて、楽しく書かせるとういでしょう。

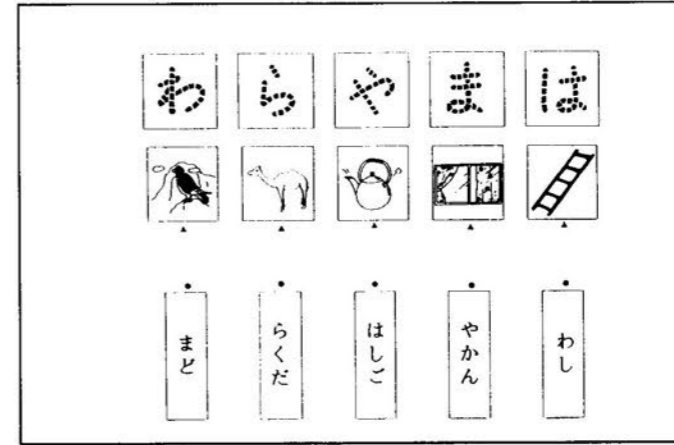
最初からうまく書けなくても、大丈夫です。書いてみることで、ひらがなに対する興味を深めたり、文字の形をより明確に意識することができます。

なお、中期ではひらがなを「行」ごとに学習してきましたので、後期では、「段」ごとにとりあげています。「あ」から「わ」まで同じ仲間の音であることも、教えてあげて下さい。

4

言語／ひらがな（あ段）②

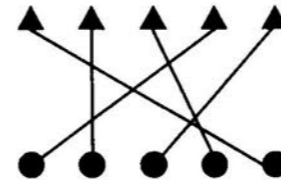
A 1 1



【問題】

1. 上の段のひらがなを、なぞって書きましょう。
(書けたら、右から読んで復唱させて下さい。「は」「ま」「や」「ら」「わ」)
2. まん中の段の絵は、上の段のひらがなが最初につくものです。絵にあうことばを下の段から選んで、線で結びましょう。

【解答】



【指導のポイント】

後期では、ひらがなを1文字ずつなぞり書きする練習をします。まず、お手本を書いてみせて、筆順を教えてあげて下さい。その際、「よこ、たて、くるりん」(「あ」)などと声をかけて、楽しく書かせるとういでしょう。











最初からうまく書けなくても、大丈夫です。書いてみることで、ひらがなに対する興味を深めたり、文字の形をより明確に意識することができます。

なお、中期ではひらがなを「行」ごとに学習してきましたので、後期では、「段」ごとにとりあげています。「あ」から「わ」まで同じ仲間の音であることも、教えてあげて下さい。

5

言語／カタカナ（ア行）

A 1 1

オ	お	エ	え	ウ	う	イ	い	ア	あ
									
バイオリン	おもちゃ	エプロン	えんとつ	ブラウス	うちわ	アイロン	いか	アルバム	あかとんぼ

【問題】

（まず、上の段のひらがなとカタカナを、右から順に読んで、復唱させて下さい。）

1. 下の段のことばを、1つずつ読んでみましょう。
2. 上の段の文字を、下の段のことばの中からさがして、○をつけて下さい。

【解答】

（省略）











【指導のポイント】

カタカナを、同じ音のひらがなとあわせて学習します。○をつけおわったら「『あかとんぼ』の『あ』」というように、復唱させるとよいでしょう。

6

言語／カタカナ（カ行）

A 1 1

コ	こ	ケ	け	ク	く	キ	き	カ	か
									
コップ	こおろぎ	ケーキ	けしこむ	クリスマス	くじら	ケーキ	きく	カレンダー	かぶとむし

【問題】

（まず、上の段のひらがなとカタカナを、右から順に読んで、復唱させて下さい。）

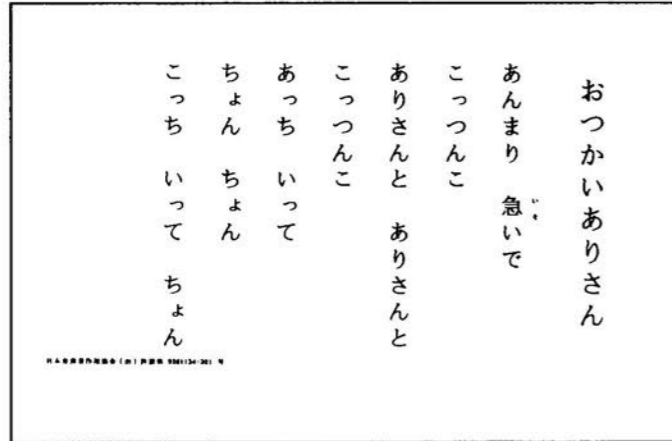
1. 下の段のことばを、1つずつ読んでみましょう。
2. 上の段の文字を、下の段のことばの中からさがして、○をつけて下さい。

【解答】

（省略）

【指導のポイント】

カタカナを、同じ音のひらがなとあわせて学習します。○をつけおわったら「『かぶとむし』の『か』」というように、復唱させるとよいでしょう。



【問題】

(ここには、歌が書いてあります。

知っている字があったら、読んでみましょう。何の歌でしょうか。)

1. これは、「おつかいありさん」の歌です。歌詞を読んでみましょう。(ひとくぎりずつ歌詞を読んで、復唱させて下さい。)
2. 歌詞をみながら、「おつかいありさん」の歌を歌いましょう。(くりかえし練習して、歌を覚えましょう。)
3. あいている所に、この歌にあう絵を自分で書いて下さい。

【歌詞を読む時の指導箇所】

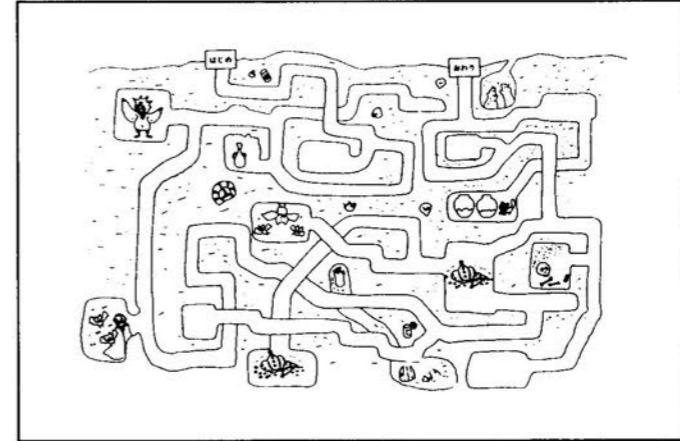
- 濁音 「いそいで」
- 促音 「こつつんこ」「あっち」「いって」「こっち」
- 拗音 「ちよんちよん」

【指導のポイント】

中期・後期の各号では、歌を1曲ずつ学習していきます。歌のページは繰り返し学習して、覚えてしまうようにして下さい。歌を覚えることで、語彙をふやしていくことができます。

また、(覚えた)歌詞を文字で確認しながら歌うことで、ことばや文を読む力もつけられます。ひらがなの濁音・長音・促音および助詞の表記や漢字なども、歌詞という親しみやすい形で何度も目にしていると、自然に読めるようになってきます。「歌詞を読むときの指導箇所」を参考にして、簡単に説明してあげて下さい。

最後の設問は課題画ですが、楽しく自由に絵をかかせて下さい。簡単な絵でかまいません。歌の内容を自分でイメージするという練習が大切です。



【問題】

左上の「はじめ」から、右上の「おわり」までいきます。どの道を通してゆけばよいでしょうか。

紫の線で、道をたどって下さい。

【解答】

(省略)

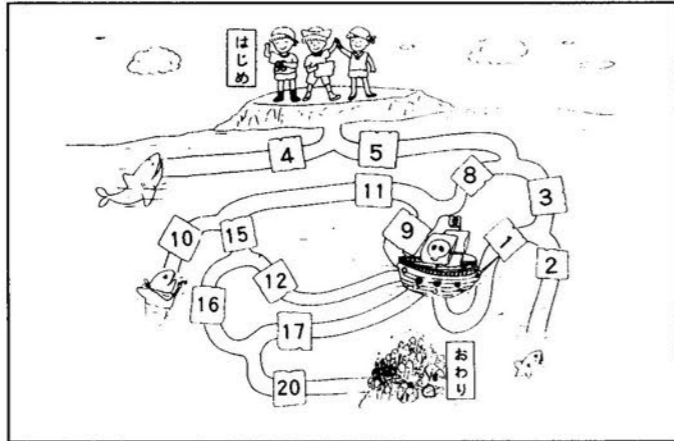
【指導のポイント】

思考力と運筆力を養う迷路の練習です。目的地まで進めるように、注意して正しい道を選ばせましょう。書くときには、力を入れて道のまん中にいていねいに線をひくよう、指導して下さい。30秒程度で書き終わられるよう、色を変えたりして、何回も練習させるとよいでしょう。

9

図形／書く（迷路）②

A 1 1



【問題】

子どもが、宝物を探しに行きます。
道が分かれているところでは、大きい方の数の道へ進んで下さい。
茶色で、道に線をひいて下さい。

【解答】

(省略)

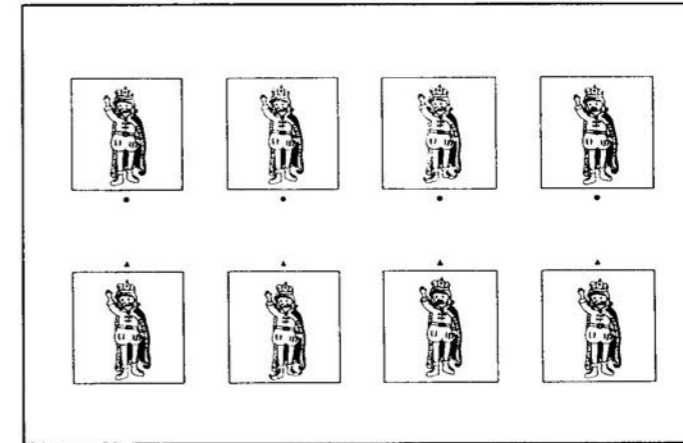
【指導のポイント】

思考力と運筆力を養う迷路の練習です。分かれ道では、条件にあう方を間違わないように選ばせましょう。書くときには、力を入れて道のまん中にていねいに線をひくよう、指導して下さい。30秒程度で書き終わられるよう、色を変えたりして、何回も練習させるとよいでしょう。

10

図形／同図形発見①

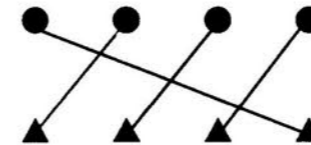
A 1 1



【問題】

上の絵と同じものを下から選んで、●と▲を、黄色の線で結んで下さい。

【解答】



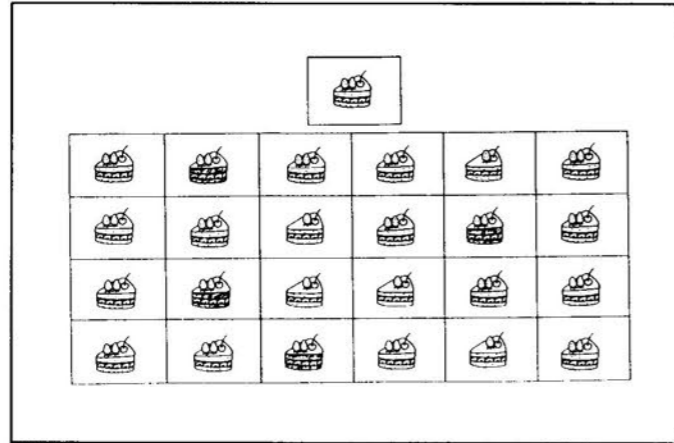
【指導のポイント】

同図形を見つけるには、図形の全体と細部を注意深く観察する力が必要です。
絵を構成している1つ1つのものの形・色の濃淡・もようや位置などを確認しながら、正確に見つけだすよう指導して下さい。

1 1

図形／同図形発見②

A 1 1



【問題】

上の四角の中の絵と同じものを、下から選んで、だいたいの○をつけて下さい。
左上から順番に、はやくやってみましょう。(30秒から1分)

【解答】

○		○	○		○
○	○		○		○
○				○	○
○	○		○		○

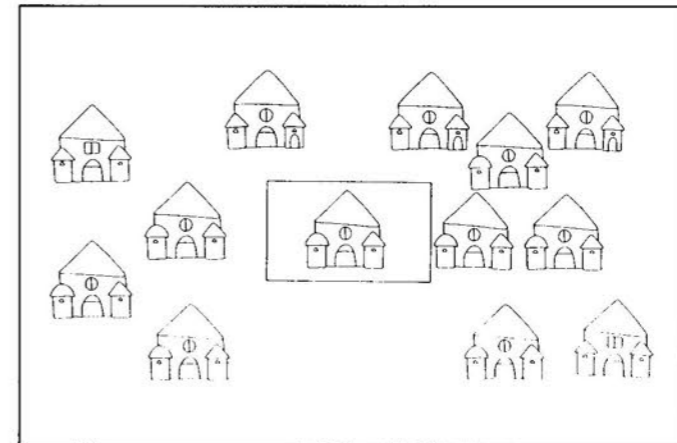
【指導のポイント】

同図形を見つけるには、図形の全体と細部を注意深く観察する力が必要です。
絵を構成している1つ1つのもの形・色の濃淡・もようや位置などを確認しながら、はやく正確に見つけだすよう指導して下さい。
後期ですので、解答時間を制限して、ゲームのようにすばやくやらせてみるとよいでしょう。集中力・作業力を養う練習になります。

1 2

図形／異図形発見①

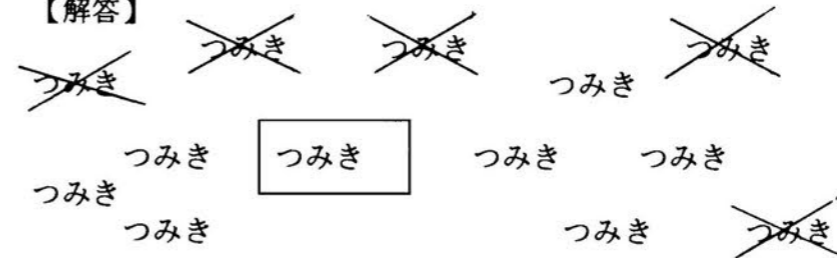
A 1 1



【問題】

まん中の四角の中の絵と違う絵が、5つあります。
全部見つけて、緑の×をつけて下さい。

【解答】



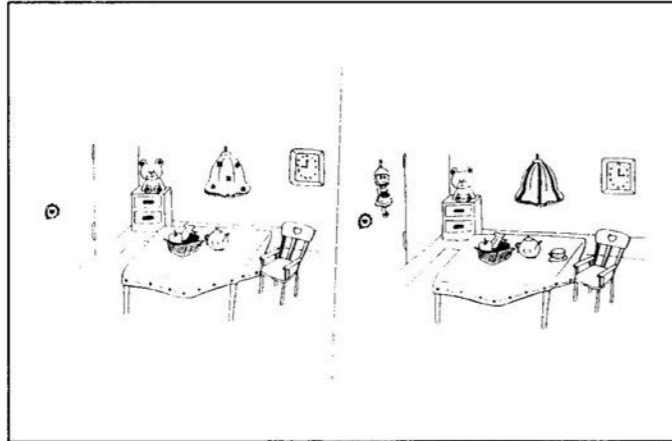
【指導のポイント】

ここでは、「違う」ものをさがすのだということを、まず確認しておいて下さい。
1つ1つ注意深く見比べて、正確に見つけだすよう指導して下さい。
×をつけたら、その数を数えて、指定された数になっているかどうか、確かめさせて下さい。

13

図形／異図形発見②

A 1 1



【問題】

右の絵は、左の絵と違うところが4つあります。
違っているところがよくわかるように、右の絵に、茶色で○をつけて下さい。

【解答】

- (左の絵と右の絵で違う箇所)
- 電灯のかさ
- 時計の時刻 (3時と9時)
- 壁にかけてある人形 (左の絵にはない)
- テーブルの上の紅茶の茶碗 (左の絵にはない)

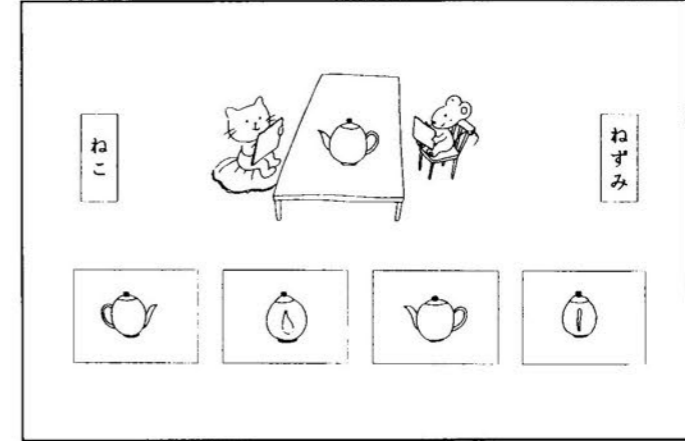
【指導のポイント】

最初はしっかり観察させて、確実に違いを見つけさせて下さい。絵を構成している部分を、1つずつ、「○○は、どうかな」と左右で見比べるように指導するとよいでしょう。

14

図形／立体①

A 1 1



【問題】

- ねことねずみが、ポットの絵をかいています。
1. ねこからは、ポットはどんなふうに見えるでしょうか。下の段の絵から選んで、青の○をつけて下さい。「ねこ」という字にも、青の○をつけておきましょう。
 2. ねずみからは、ポットはどんなふうに見えるでしょうか。下の段の絵から選んで、赤の○をつけて下さい。「ねずみ」という字にも、赤の○をつけておきましょう。

【解答】

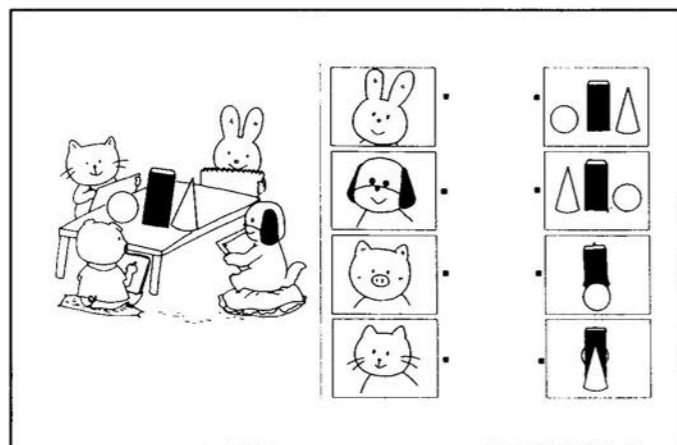
1. 左から2番目
2. 右はし

【指導のポイント】

実際に物を置いて、いろいろな位置からながめさせてみて下さい。こどもたちは、今まで気づかなかった形を発見することでしょう。
このような体験によって、子どもは客観的にものを見ることができるようになり、観察力が発達していきます。

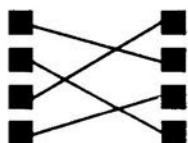
15 図形／立体②

A11



【問題】
 動物たちが、積み木の絵をかいています。
 それぞれの動物からは、積み木はどんなふうに見えるでしょうか。
 左側の動物の絵の■と、右側の積み木の絵の■を、線で結んで下さい。

【解答】



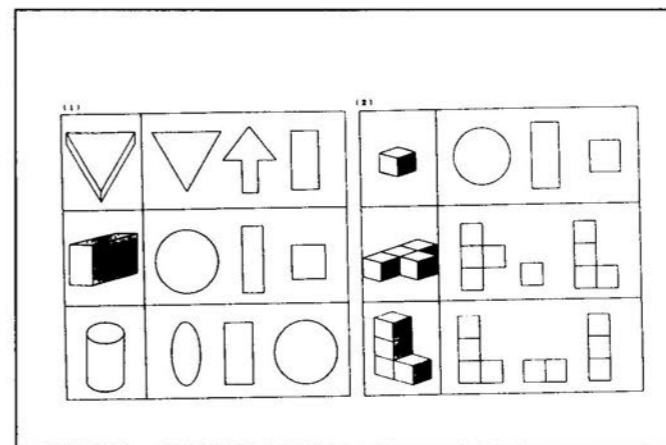
【指導のポイント】

実際に物を置いて、いろいろな位置からながめさせてみて下さい。こどもたちは、今まで気づかなかった形を発見することでしょう。

このような体験によって、子どもは客観的にものを見ることができるようになり、観察力が発達していきます。

16 図形／立体③

A11



【問題】
 左はしの形を上から見ると、どんなふうに見えるでしょうか。
 右から選んで、赤の○をつけて下さい。

【解答】

(左上) → 左はし

(右上) → 右はし

(左中) → まん中

(右中) → 左はし

(左下) → 右はし

(右下) → まん中

【指導のポイント】

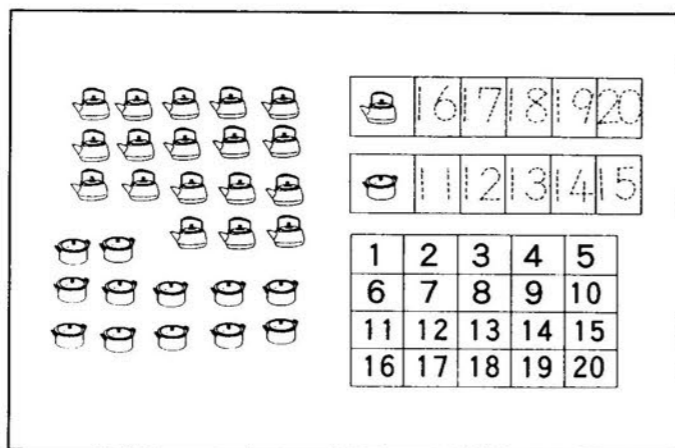
実際に物を置いて、上からながめさせてみて下さい。こどもは、ふだん下から物を見上げて生活していることが多いので、今まで気づかなかった形を発見することでしょう。

このような体験によって、子どもは客観的にものを見ることができるようになり、観察力が発達していきます。

17

数・量／数を数える①

A11



【問題】

やかんとなべの数を数えましょう。

(まず、右下の数の表を指さしながら、1から20まで数唱して、復唱させて下さい。)

1. 青の○をつけながら、やかんの数を数えて下さい。数えたら、青でその数(数字)をなぞって書きましょう。
2. 黄色の○をつけながら、なべの数を数えて下さい。数えたら、黄色でその数(数字)をなぞって書きましょう。
3. 右下の数字の表の中で、やかんの数の数字をさがして、青で○をつけて下さい。
4. 右下の数字の表の中で、なべの数の数字をさがして、黄色で○をつけて下さい。

【解答】

1. 18
2. 12
3. (省略)
4. (省略)

【指導のポイント】

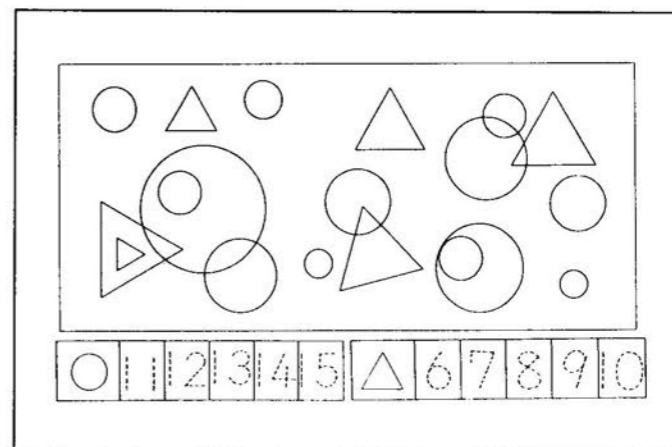
同じものをさがして、しっかり数を数えさせましょう。数え忘れがないように、左上から順番に、しるしをつけながら数える練習をさせて下さい。

20までの数唱がしっかりできるように、ドッツカードや数字の表を使って、繰り返し練習させて下さい。

18

数・量／数を数える②

A11



【問題】

わくの中にある形の数を数えましょう。重なっているものも、全部数えます。

1. ○(まる)はいくつありますか。○(まる)の形を茶色でなぞりながら、数を数えて下さい。数えたら、茶色でその数(数字)をなぞって書きましょう。
2. △(さんかく)はいくつありますか。△(さんかく)の形を青でなぞりながら、数を数えて下さい。数えたら、青でその数(数字)をなぞって書きましょう。

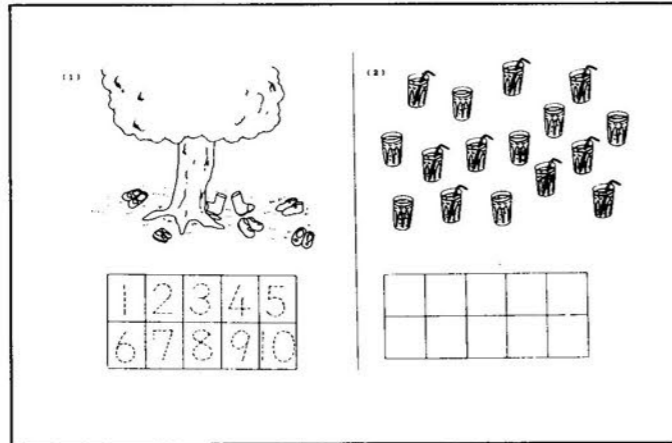
【解答】

1. 13
2. 6

【指導のポイント】

同じ形をさがして、しっかり数を数えさせましょう。重なっているところは特に注意して、輪郭をなぞらせながら数えさせて下さい。

20までの数唱がしっかりできるように、ドッツカードや数字の表を使って、繰り返し練習させて下さい。



【問題】

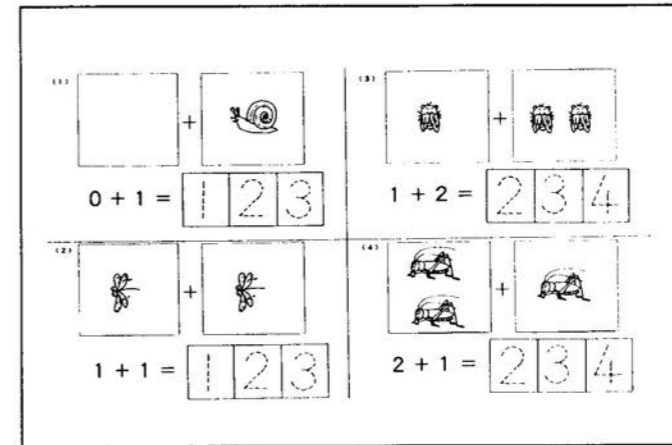
1. 子どもが木に登っています。木の上には、子どもが何人いると思いますか。くつの数を数えて考えてみましょう。緑でその数（数字）をなぞって書きましょう。
2. コップがたくさんあります。この中で、ストローが入っているコップは何個ありますか。その数だけ、黄色で箱に○を書いて下さい。

【解答】

1. 6（人）
2. 9（個）

【指導のポイント】

指示をよく聞いて、その指示にあうものをしっかり数えさせましょう。



【問題】

答えの数（数字）を選んで、なぞりましょう。

1. 左側には、何もいません。右側には、かたつむりが1匹います。左側と右側をあわせると、かたつむりは全部で何匹になりますか。
2. 左側には、とんぼが1匹います。右側にも、とんぼが1匹います。左側と右側をあわせると、とんぼは全部で何匹になりますか。
3. せみが1匹います。後から、2匹やってきました。せみは、全部で何匹になりますか。
4. ばったが2匹います。後から、1匹やってきました。ばったは、全部で何匹になりますか。

【解答】

1. 1（匹）
2. 2（匹）
3. 3（匹）
4. 3（匹）

【指導のポイント】

後期（11～15号）では、答えが10までの「もの」のたし算を、答えの絵なしで学習します。左側の数をひとまとまりにして数えた後、続きとして、右側の数を数えさせて下さい。（「イチ、ニサン」というように。）

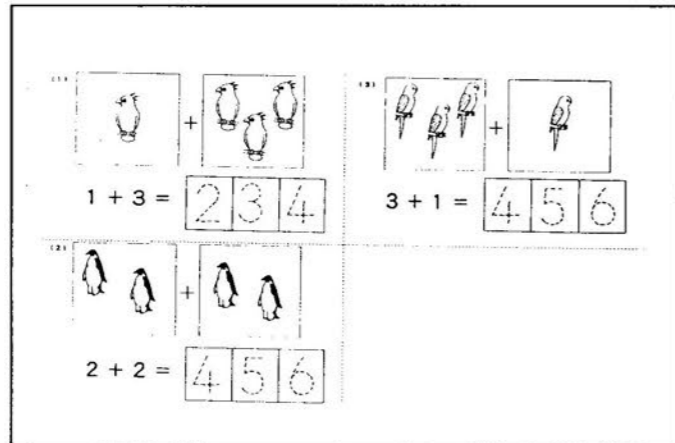
また、たし算のパターンには、ものがふえていくパターンと、2つのものをあわせるパターンがあることも、理解させて下さい。

解答し終わったら、たし算の式と答えを子どもに言わせて下さい。

21

数・量／たし算②

A11



【問題】

答えの数（数字）を選んで、なぞりましょう。

1. 左側には、おうむが1羽います。右側には、おうむが3羽います。左側と右側をあわせると、おうむは全部で何羽になりますか。
2. 左側には、ペンギンが2羽います。右側にも、ペンギンが2羽います。左側と右側をあわせると、ペンギンは全部で何羽になりますか。
3. いんこが3羽います。後から、1羽やってきました。いんこは、全部で何羽になりますか。

【解答】

1. 4（羽）
2. 4（羽）
3. 4（羽）

【指導のポイント】

後期（11～15号）では、答えが10までの「もの」のたし算を、答えの絵なしで学習します。左側の数をひとまとまりにして数えた後、続きとして、右側の数を数えさせて下さい。（「イチ、ニサンシ」というように。）

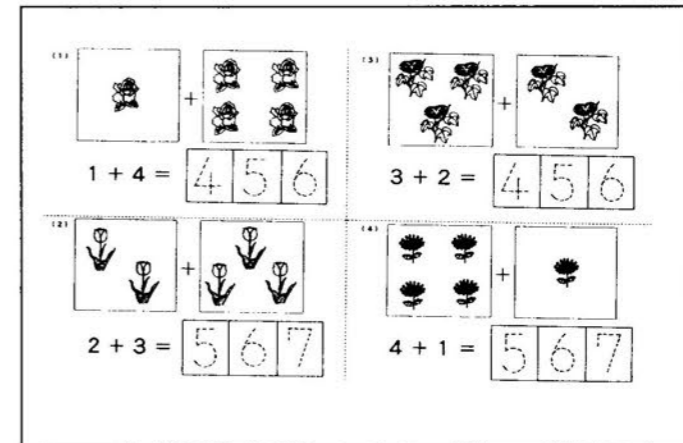
また、たし算のパターンには、ものがふえていくパターンと、2つのものをあわせるパターンがあることも、理解させて下さい。

解答し終わったら、たし算の式と答えを子どもに言わせて下さい。

22

数・量／たし算③

A11



【問題】

答えの数（数字）を選んで、なぞりましょう。

1. 左側には、バラが1つあります。右側には、バラが4つあります。左側と右側をあわせると、バラは全部で何本になりますか。
2. 左側には、チューリップが2つあります。右側には、チューリップが3つあります。左側と右側をあわせると、チューリップは全部で何本になりますか。
3. あさがおが3つあります。後で、2つ持ってきました。あさがおは、全部でいくつになりますか。
4. きくが4本あります。後で、1本買ってきました。きくは、全部で何本になりますか。

【解答】

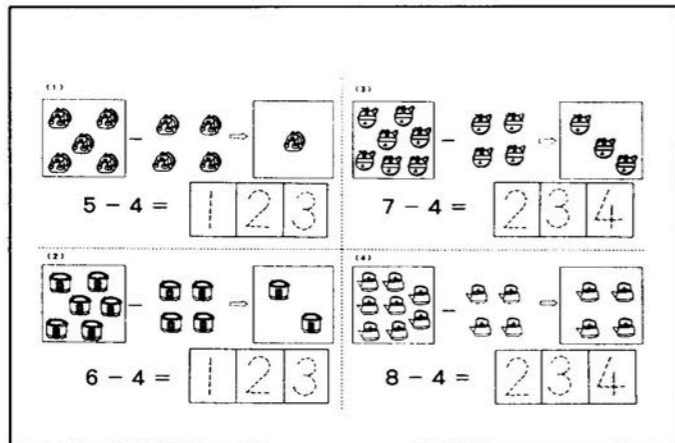
1. 5（本）
2. 5（本）
3. 5（つ）
4. 5（本）

【指導のポイント】

後期（11～15号）では、答えが10までの「もの」のたし算を、答えの絵なしで学習します。左側の数をひとまとまりにして数えた後、続きとして、右側の数を数えさせて下さい。（「イチ、ニサンシゴ」というように。）

また、たし算のパターンには、ものがふえていくパターンと、2つのものをあわせるパターンがあることも、理解させて下さい。

解答し終わったら、たし算の式と答えを子どもに言わせて下さい。



【問題】

答えの数（数字）を選んで、なぞりましょう。

- リュックサックが5つあります。4つ売れました。
リュックサックは、いくつ残っていますか。
- 炊飯器が6個あります。4個売れました。
炊飯器は、何個残っていますか。
- 水筒が7つあります。4つ売れました。
水筒は、いくつ残っていますか。
- やかんが8つあります。4つ持っていきました。
やかんは、いくつ残っていますか。

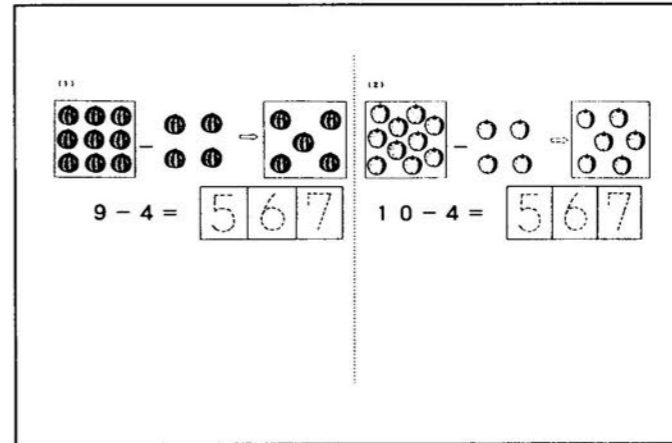
【解答】

- 1 (つ)
- 2 (個)
- 3 (つ)
- 4 (つ)

【指導のポイント】

左側の絵の数（もとの数）を数えさせた後、その絵に、まん中の絵の数（なくなった数）の分だけ、×をつけさせて下さい。それから、×をつけていない残った数を数えさせましょう。右側の答えの数と一致していることも、確認させて下さい。このような作業をくりかえし練習しながら、絵をよくみて、ひき算の意味をしっかりと理解させて下さい。

絵の下のひき算の式は、答えあわせの後で声を出して読んであげて下さい。



【問題】

答えの数（数字）を選んで、なぞりましょう。

- すいかが9個あります。4個食べました。
すいかは、何個残っていますか。
- なしが10個あります。4個食べました。
なしは、何個残っていますか。

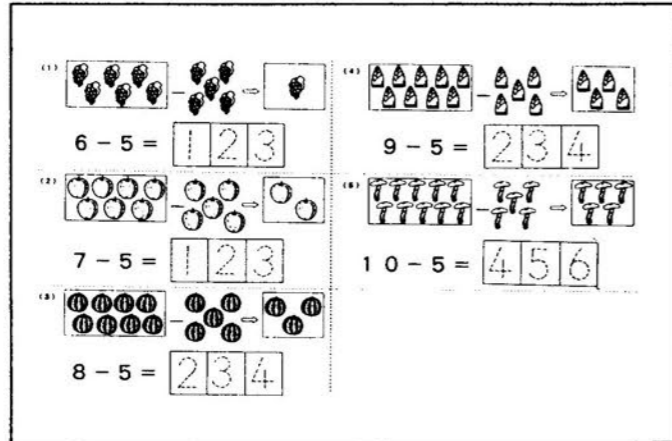
【解答】

- 5 (個)
- 6 (個)

【指導のポイント】

左側の絵の数（もとの数）を数えさせた後、その絵に、まん中の絵の数（なくなった数）の分だけ、×をつけさせて下さい。それから、×をつけていない残った数を数えさせましょう。右側の答えの数と一致していることも、確認させて下さい。このような作業をくりかえし練習しながら、絵をよくみて、ひき算の意味をしっかりと理解させて下さい。

絵の下のひき算の式は、答えあわせの後で声を出して読んであげて下さい。



【問題】 答えの数（数字）を選んで、なぞりましょう。

- ぶどうが6個あります。5個売れました。ぶどうは、何個残っていますか。
- なしが7個あります。5個食べました。なしは、何個残っていますか。
- すいかが8個あります。5個食べました。すいかは、何個残っていますか。
- たけのこが9個あります。5個食べました。たけのこは、何個残っていますか。
- まつたけが10個あります。5個食べました。まつたけは、何個残っていますか。

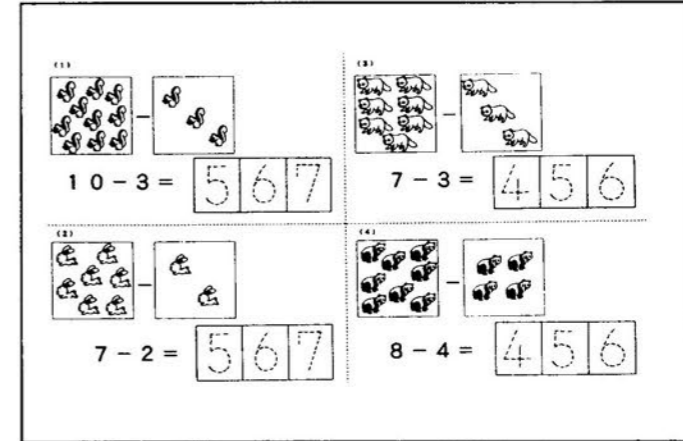
【解答】

- 1 (個)
- 2 (個)
- 3 (個)
- 4 (個)
- 5 (個)

【指導のポイント】

左側の絵の数（もとの数）を数えさせた後、その絵に、まん中の絵の数（なくなった数）の分だけ、×をつけさせて下さい。それから、×をつけていない残った数を数えさせましょう。右側の答えの数と一致していることも、確認させて下さい。このような作業をくりかえし練習しながら、絵をよくみて、ひき算の意味をしっかりと理解させて下さい。

絵の下のひき算の式は、答えあわせの後で声を出して読んであげて下さい。



【問題】 答えの数（数字）を選んで、なぞりましょう。

- りすが10匹います。3匹どこかへ行きました。りすは、何匹残っていますか。
- うさぎが7匹います。2匹どこかへ行きました。うさぎは、何匹残っていますか。
- たぬきが7匹います。3匹どこかへ行きました。たぬきは、何匹残っていますか。
- パンダが8頭います。4頭どこかへ行きました。パンダは、何頭残っていますか。

【解答】

- 7 (匹)
- 5 (匹)
- 4 (匹)
- 4 (頭)

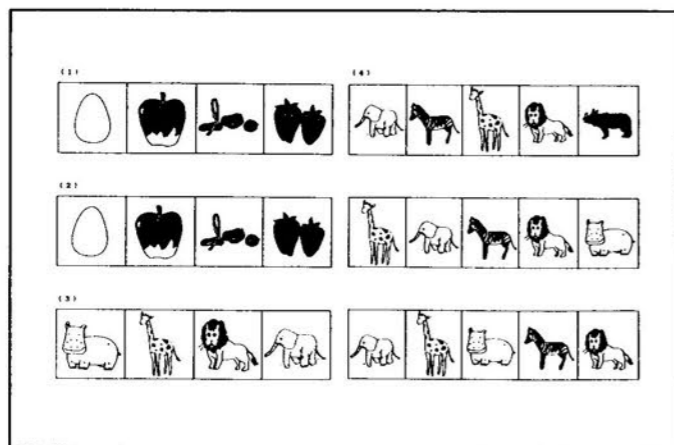
【指導のポイント】

このページは、今までに学習したのひき算の復習です。答えの絵はありません。左側の絵の数（もとの数）を数えさせた後、その絵に、まん中の絵の数（なくなった数）の分だけ、×をつけさせて下さい。それから、×をつけていない残った数を数えさせましょう。

絵の下のひき算の式は、答えあわせの後で声を出して読んであげて下さい。

27 記憶 / お話の記憶①

A 1 1



【問題】（目を閉じさせて、お話を読んでから、質問して下さい。）

太郎くんは、きのう、幼稚園の遠足で、動物園に行きました。クラスみんなが縦に2列になって、隣どうし手をつないで、見て歩きました。とてもよい天気だったので、ほかにも大勢の人たちが来ていました。

一番初めて見たのは、入り口の近くにいた、背の高いキリンです。数を数えると、全部で7頭のキリンがいました。みんなで仲よく、高い台の上に置いてある草を食べていました。「キリンさんは首が長いから、あんなに高いところにごはんのテーブルがあるのよ。」と上田先生が教えてくれました。

キリンの隣の囲いにいたのは、象さんたちです。水を飲んでいる象がいました。長い鼻でリンゴをつかみ、それをじょうずに口に運び入れて、パクッと食べている象もいました。お尻から大きなウンコをポタッポタッと落としている象もいました。太郎くんは「象って本当に大きいなあ、テレビで見るより大きいなあ」と思いました。

少し歩くと、たくさんのシマウマがいました。手をつないでいたマキコちゃんが「シマウマって、黒いウマに白いシマがあるのか、白いウマに黒いシマがあるのか、どっちか知ってる？」と聞きました。太郎くんは「ボク、知らない。」と言いましたが、マキコちゃんは、笑っているだけでその答を教えてくれませんでした。

次に見たのは、ライオンです。ライオンたちは、岩や木のある広い場所に放し飼いられていました。見物するところと、ライオンたちがいる場所の間に、大きな溝があるので、オリがありません。太郎くんたちが見たときは、ちょうど、グループに分かれて肉を食べているところでした。

最後に見たのは、カバの親子です。プールのそばで、腹ばいになり、親子のカ

バは目を閉じて寝ていました。眠っているのに、小さい耳がクルクルと回って動いていました。「目を閉じているだけで、眠っていないのかもしれないな。」と太郎くんは思いました。

【問題】

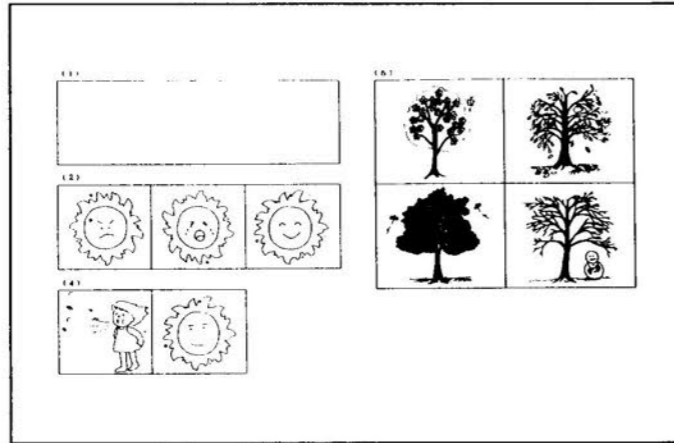
1. 太郎くんが見たとき、ライオンたちは何を食べていましたか。食べていたものに黄色の○をつけて下さい。
2. 太郎くんが見たとき、象は何を食べていましたか。食べていたものに青の○をつけて下さい。
3. 太郎くんが動物園で見た動物の中で、一番背の高い動物に緑の○を、一番重い動物に赤の○をつけて下さい。
4. 太郎くんが動物園で見た順番に、動物が並んでいるのは、どの絵でしょうか。左はしの四角の中に黒い○をつけて下さい。

【解答】

1. 肉
2. リンゴ
3. 緑→キリン、赤→象
4. まん中

【指導のポイント】

絵を見ながら、お話を読んだり、聞いたりすることは、もちろんたいせつなことです。ただ、昔話や民話などでは、絵を見せないで読み聞かせる練習も必要です。言葉を聞いて、それを頭の中でイメージ化するという作業は、思考し、想像するのに、不可欠なことです。アニメや劇画ではなく、文章を読んでものごとを理解するためには、言葉をイメージ化する力が必要です。読み聞かせる時は、子どもたちの目を、閉じさせるとよいでしょう。集中して聞くことができます。夜、布団の中で、楽しいお話を聞かせてあげて下さい。（お話のカセットテープやCDでもいいでしょう。）



【問題】（目を閉じさせて、お話を読んでから、質問して下さい。）

北風は4人きょうだいの3番目でした。ほかに、東風のおにいさんと西風のおねえさんと南風のいもうとがいました。北風はきょうだいの中で、一番の暴れんぼうで怖い物知らずでした。

一方、太陽はいつもニコニコ笑って、泣いたり怒ったり暴れたりしません。それで、北風は太陽だけはどうも苦手で、なんとかして太陽をやっつけてやりたいと思っていました。

ある日、北風が太陽に言いました。「おい、太陽。ボクの力はすごいんだぞ。木の葉っぱを落として木を枯らしたり、力を入れれば枝を吹き折ることもできるんだぞ。おまえにそんな力はないだろう。悔しかったら、ボクと勝負してみろ。」太陽はニコニコしながら答えました。「わたしは、戦いはきらいです。誰とでも仲よくしていたいんですよ。」

北風はそれを聞いて、ますます太陽が憎らしくなってきて、大きな声で言いました。「へん、なーんだ。ボクに勝てないからそんなことを言うんだらう。よーわむしー。」それを聞いていた東風のおにいさんは弟の北風に言いました。「これこれ、お日様にそんな失礼なことを言ってはいけないよ。」おねえさんの西風も妹の南風も止めましたが、北風はちっとも言うことをききません。

ちょうど、そこにマントを着たひとりの旅人が歩いて来ました。そこで、太陽が言いました。「では、北風さん。そんなに力があるのなら、あの人のマントを脱がせることができますか。」「そんなこと簡単さ。」北風は旅人のマントを吹き飛ばそうとして、力いっぱいピューッ、ピューッと吹きました。しかし、北風が力を入れて吹けば吹くほど、その旅人は「あー寒い、寒い。」と言って、マントの衿を押さえてはなしません。

「だめですね。では、わたしの番ですよ。」太陽はニコニコと暖かい光を旅人に投げかけました。すると、旅人は「ああ、暖かくなって気持ちがいい。もう、こんなものはいらぬや。」と言ってマントを脱いで歩き始めました。

北風は恥ずかしそうに小さな風になって、遠くへ逃げて行きました。それ以来、北風は、太陽が遠くにいる冬のあいだだけしか吹かなくなったということです。

【問題】

1. 北風は何人きょうだいですか。その数だけ茶色の○を書いて下さい。
2. 太陽はいつもどんな顔をしていましたか。黄色の○をつけて下さい。
3. 北風と太陽はどんな勝負（競争）をしましたか。（口頭で答えさせて下さい）
4. 北風と太陽とではどちらが勝ちましたか。赤い○をつけて下さい。
5. 北風が吹く季節にふさわしい絵はどれですか。青の○をつけて下さい。

【解答】

1. 4人きょうだい
2. 右はし
3. 省略
4. 太陽
5. 右下（冬の絵）

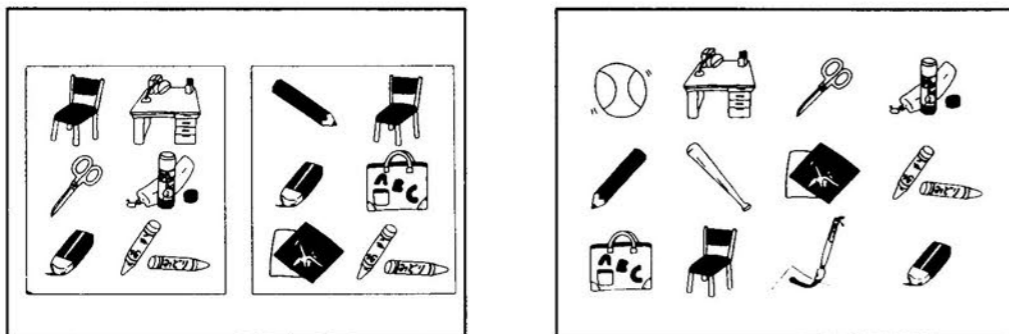
【指導のポイント】

絵を見ながら、お話を讀んだり、聞いたりすることは、もちろんたいせつなことです。ただ、昔話や民話などでは、絵を見せないで読み聞かせる練習も必要です。言葉を聞いて、それを頭の中でイメージ化するという作業は、思考し、想像するのに、不可欠なことです。アニメや劇画ではなく、文章を讀んでものごとを理解するためには、言葉をイメージ化する力が必要です。読み聞かせる時は、子どもたちの目を、閉じさせるとよいでしょう。集中して聞くことができます。夜、布団の中で、楽しいお話を聞かせてあげて下さい。（お話のカセットテープやCDでもいいでしょう。）

29.30

記憶／絵の記憶

A11



【問題】

「左側と右側の両方にあるものを、覚えて下さい。」

(記憶用紙を20～30秒間見せた後、解答用紙をわたして下さい)

「左側と右側の両方にあつた絵は、どれでしょうか。」

だいで○をつけて下さい。」

【解答】

いす、けしごむ、クレヨン

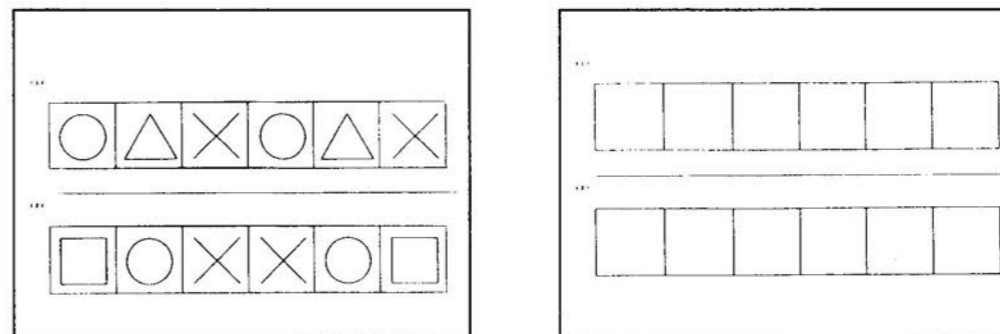
【指導のポイント】

記憶の練習をすることで、「注意してよくみる力」も育ってきます。ゲーム感覚で楽しく学習を進めて下さい。

31.32

記憶／図形の記憶

A11



【問題】

(あらかじめ、問題用紙・解答用紙とも、半分に切っておいて下さい。)

1. 「どんな形がどんな順番に並んでいるか、よくみて覚えて下さい。」

(記憶用紙を20秒間見せた後、解答用紙をわたして下さい)

「今見たとおりに、黒で形をかいて下さい。」

2. 「どんな形がどんな順番に並んでいるか、よくみて覚えて下さい。」

(記憶用紙を20秒間見せた後、解答用紙をわたして下さい)

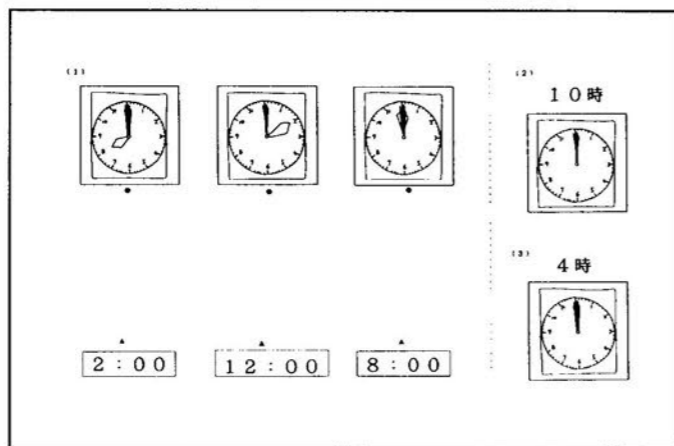
「今見たとおりに、黒で形をかいて下さい。」

【解答】

(省略)

【指導のポイント】

形が並んでいる規則を見つけると、記憶するのが楽になります。ゲーム感覚で楽しく学習を進めて下さい。

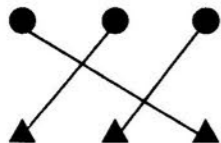


【問題】

1. 何時でしょうか。下から選んで、●と▲を、茶色の線で結んで下さい。
2. 「10時」になるように、右上の時計に、短い針を書きましょう。
3. 「4時」になるように、右下の時計に、短い針を書きましょう。

【解答】

1.

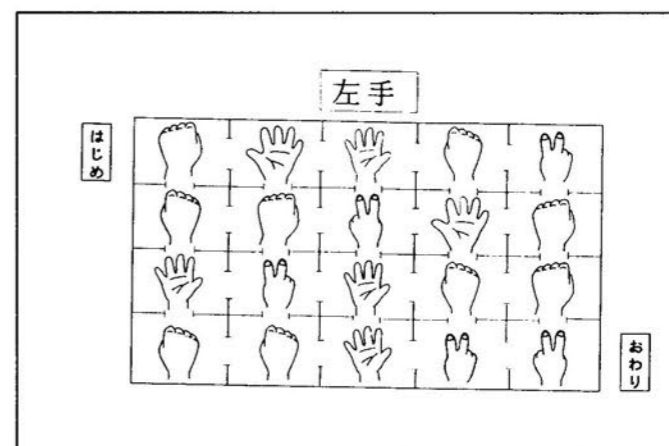


2. (省略)

【指導のポイント】

2. の問題で、短い針の位置がわかりにくいようでしたら、時計の教具などをお手本にして、それを見ながら書かせてあげて下さい。「〇時」のときは、いつも長い針が「12」の位置にあることにも、気づかせて下さい。

生活の中でも、時計から時刻を読みとることを繰り返し練習して下さい。また、子どもが生活に結び付けて時刻をとらえられるよう、規則正しい生活のリズムを作るよう、配慮してあげるとよいでしょう。



【問題】

1. 左上の「はじめ」から、左手だけを通して、右下の「おわり」まで行きましょう。
だいだいの線でたどって下さい。
2. 道路で車が通るのは、右側でしょうか、左側でしょうか。

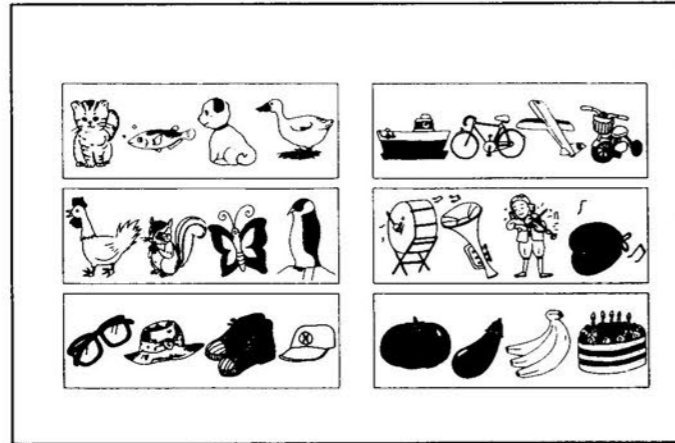
【解答】

1. (省略)
2. 左

【指導のポイント】

指定されたものの所だけを通るパターンの迷路です。いろいろな手の形がありますので、自分の手と比べて、間違わないように選ばせて下さい。

社会生活の中での左右のルールについて、話し合ってみましょう。



【問題】

どれとどれが、同じ仲間でしょうか。2つ選んで、緑の○をつけて下さい。

【解答】

(左上から順に)

ねこ(○)、たい、いぬ(○)、あひる：けもの
にわとり(○)、りす、ちょうちょ、ペンギン(○)：鳥
めがね、むぎわらぼうし(○)、くつ、野球帽(○)：帽子

(右上から順に)

ふね、自転車(○)、ひこうき、三輪車(○)：道(陸)を走るのりもの
たいこ(○)、らっぱ、バイオリン、カスタネット(○)：

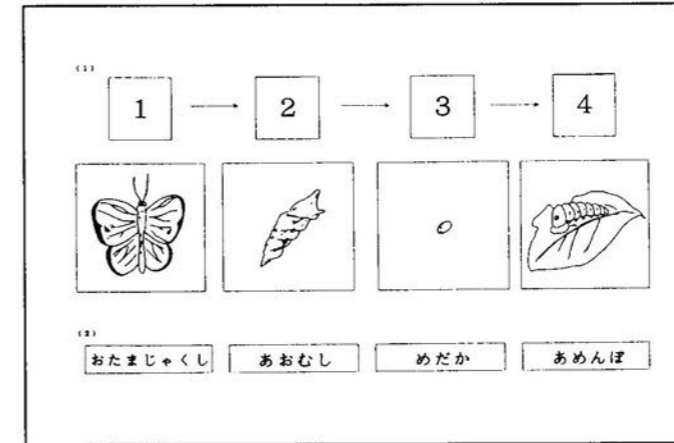
たたいて音をだす楽器

とまと(○)、なす(○)、バナナ、ケーキ：野菜

【指導のポイント】

それぞれの名前と、○をつけたものが何の仲間であるかを、子どもに説明させて下さい。その際、正解でなくても、子どもの判断した理由をしっかりと聞いてあげて下さい。

抽象化の能力を高める問題です。



【問題】

(1) これは、ちょうちょが大きくなる様子をかいた絵です。

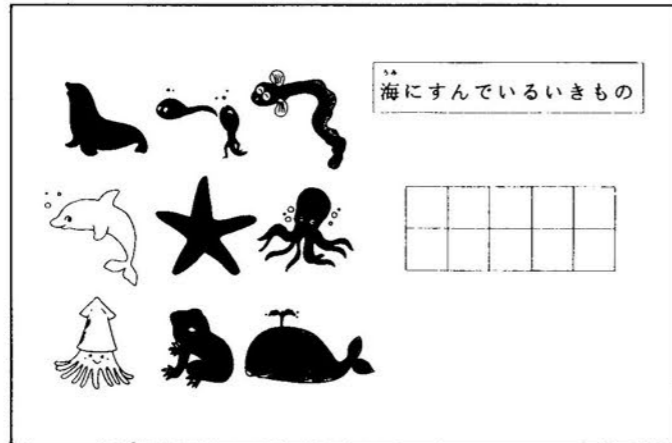
- 大きくなる順番に、絵を並べましょう。一番最初の絵は、どれでしょうか。黄色の○をつけて下さい。数字の「1」にも、黄色の○をつけておきましょう。
 - 2番めの絵は、どれでしょうか。緑の○をつけて下さい。数字の「2」にも、緑の○をつけておきましょう。
 - 3番めの絵は、どれでしょうか。青の○をつけて下さい。数字の「3」にも、青の○をつけておきましょう。
 - 一番最後の絵は、どれでしょうか。だいだいの○をつけて下さい。数字の「4」にも、だいだいの○をつけておきましょう。
- (2) ちょうちょの子どもは、何といいますか。子どもの名前に、赤で○をつけて下さい。

【解答】

1. 左から3番目
2. 右はし
3. 左から2番目
4. 左はし
- あおむし

【指導のポイント】

動物には、成長段階で姿形が変わるものがあります。小動物や昆虫は、比較的身近で観察しやすいものです。絵本や図鑑で調べたり実物を見せたりして、好奇心を育ててあげて下さい。



【問題】

この中で、海に住んでいる生き物に、青の○をつけて下さい。
○をつけたものがいくつあるか数えて、その数（数字）だけ、箱に青で○をかいて下さい。

【解答】

（左上から順に）

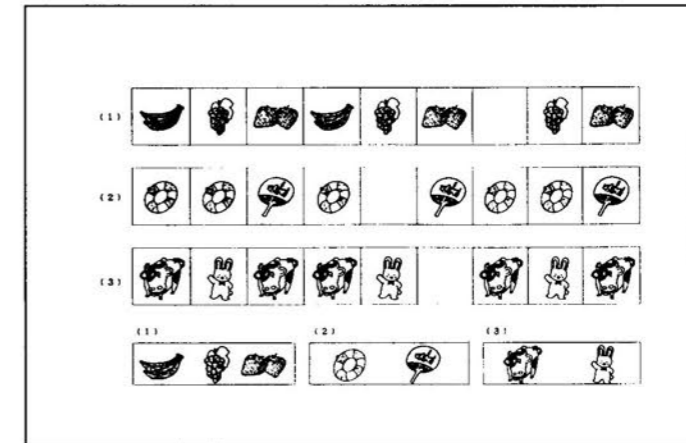
あしか（○）、おたまじゃくし、うなぎ（○をつけても可）
いるか（○）、ひとで（○）、たこ（○）
いか（○）、かえる、くじら（○）

○は6こ

【指導のポイント】

あまり親しみのない生き物については、絵本や図鑑で調べたり、できれば動物園・植物園・水族館などに行って、実物を見る機会を作ってあげるとよいでしょう。子どもの好奇心を大事に育ててあげて下さい。

なお、うなぎは産卵時以外は、川にすんでいます。



【問題】

絵が順番に並んでいます。あいている所にちょうどよい絵を、一番下の段から選んで、黄色の○をつけて下さい。

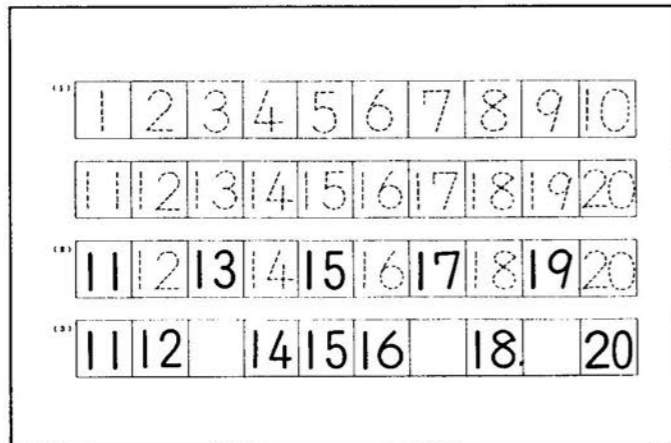
【解答】

1. バナナ
2. うきわ
3. うし

【指導のポイント】

並んでいる順番に、「バナナ、ぶどう、いちご、バナナ、ぶどう、いちご、・」と声に出して言わせて、規則を見つけさせましょう。同じ物が連続してでているので、注意させて下さい。

規則を発見する楽しさを、子どもに体験させてあげて下さい。



【問題】

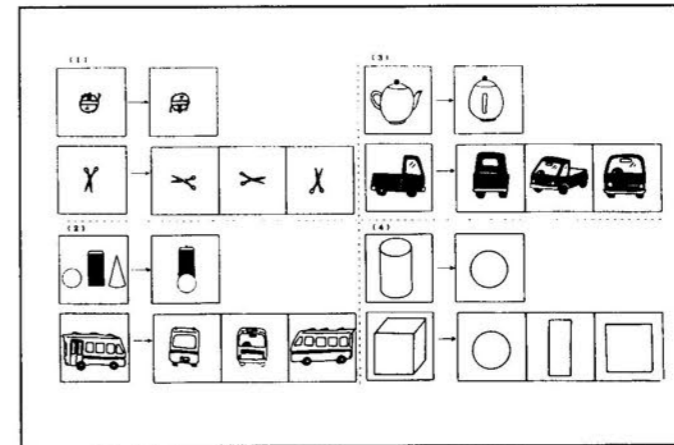
2. 1から20まで、数字をなぞって書きましょう。
(書けたら、1から20まで、数えてみましょう。)
この中で、15より大きい数字に黄色の○をつけて下さい。
- ぬけているところの数字を、なぞって書きましょう。
- ぬけているところには、どんな数字が入るでしょうか。数字を書いて下さい。
(言ってください。)

【解答】

(省略)

【指導のポイント】

数字の並びをしっかり理解させましょう。
ドッツカードなどでも練習して、1から20まできちり唱えられるようにさせて下さい。
「○より大きい数」というときは、「○」は含まれないことも説明してあげて下さい。



【問題】

上の段の左の絵が、右のように変わります。
下の段の絵はどうなるでしょうか。右から選んで、茶色の○をつけて下さい。

【解答】

- | | |
|---------|---------|
| (1) 右はし | (3) 左はし |
| (2) まんち | (4) 右はし |

【指導のポイント】

変化のルールを見つけることが大切です。最初なので、しっかり説明して、問題の意味を十分理解させて下さい。
この問題では、(1)が「ものが180°回転する」変化、(2)が「前から見た形になる」変化、(3)が「後ろから見た形になる」変化、(4)が「上から見た形になる」変化です。すべて、図形分野ですすでに学習した内容です。このページでは、自分で変化のルールを見つけるという、より高度な判断を必要とする問題として、とりあげています。